

11. 弱視の児童生徒に拡大写本を作る活動

グループ名：東京女子大学同窓会奉仕グループ「あじさい」

代表者名：秋元 暁美

① 活動の目的

- 弱視の児童生徒のために手書きで拡大写本を製作し、盲学校や弱視教室に送り、児童生徒の読書活動を支援する。
- 「あじさい」所蔵の拡大写本の貸出しを行い、拡大図書が手に入りにくい弱視の児童生徒の読書活動を支援する。
- 拡大写本を授業で活用することにより、盲学校の先生方の授業支援を行うとともに、拡大写本の普及・啓蒙活動に役立てる。

② 活動概要

1. 拡大写本とは

「拡大写本」とは拡大鏡やレンズを使っても通常の文字を読むことが著しく困難な、視覚障害を持つ弱視の子供達が楽に読める様に、既存の本を読みやすい大きな文字に書き直して作られた本のことです。パソコンを使用しているグループもありますが、「あじさい」では温かさが感じられ、目にやさしく読みやすい手書きにこだわって製作を行っています。

2. 拡大写本の寄贈先

「あじさい」ではこれまで30年にわたり、主に子供向けの絵本や童話の拡大写本を製作し、盲学校（視覚支援学校）に寄贈してきました。昨年の東日本大震災後、被災地支援の目的から寄贈を開始した盲学校2校も含め、現在の寄贈先は下記の7か所です。

1	筑波大学附属視覚特別支援学校 小学部
2	東京都立八王子盲学校
3	東京都足立区立五反野小学校 弱視教室
4	宮崎県立明星視覚支援学校
5	杉並区立中央図書館
6	福島県立盲学校
7	宮城県立視覚支援学校

3. 活動実績

月に2回、東京女子大学同窓会館で活動し、企画・校正・製本作業（手作りの簡易製本器を使用）等を行っています。原稿は手書きで多くの時間がかかるため、1冊の本を数名で手分けして自宅で作成後、持ち寄って1冊の本に仕上げ、拡大写本原本完成後、必要部数をコピーしています。

拡大写本の製作に際しては、作者・出版社から著作権の許諾を得る必要があります。表紙、挿絵等は拡大コピーしますが、カラーページが多いのでかなりの費用がかかります。ボランティア活動のため自己資金には限界がありますが、助成金を頂いたおかげで、1冊平均2000円として60冊の拡大写本を製作・寄贈することができました。

地震被災地の盲学校では除染作業等で屋外活動を制限されている中、子供達にとっては読書が楽しみとなっており、この様な学校にも本を寄贈することができ大変喜ばれました。また、他の寄贈先の先生・児童生徒からも多くの感謝の言葉が届いています。

製作した拡大写本リスト	出版社名
クマのプーさん ⑩～⑮	岩崎書店
かいけつゾロリのでんごととじごく	岩崎書店
イソップどうわ 1年生	岩崎書店
ちびまる子ちゃん ⑭⑮	集英社
人物伝記事典より 「紫式部」「ナポレオン」「マザーテレサ」 他	フレーベル館
あかずきん・みにくいあひるのこ・しらゆきひめ	ひさかたチャイルド
さむがり王さま おばけの子	理論社
かぎばあさんの魔法のかぎ	岩崎書店
心にのこる1年生のよみもの	学校図書
マジックツリーハウス ⑲ベネチアと金のライオン	メディアファクトリー
きいろいばけつ	あかね書房
つりばしゆらゆら	あかね書房
あのこにあえた	あかね書房
きまぐれロボット	理論社

他 合計60冊

活動を支援して下さった大同生命厚生事業団の皆様には厚く御礼申し上げます。

4. 今後の活動について

拡大教科書はボランティアの努力もあり、かなり行き渡るようになってきましたが、童話・絵本・図鑑等の拡大写本はまだまだ数が足りないのが現状です。

楽しく読める絵本や童話は、目を使うことの楽しさを弱視の子供達に認識させ、少しでも読んでみよう、見てみようという動機付けにもなると言われています。

今後も弱視の子供達たちに、読み聞かせではなく“自分で読む”楽しさを体験させてあげたいと願いつつ、子供達に喜んでもらえる様な読みやすい拡大写本を作って行きたいと思っています。

③決算報告書

収入	大同生命厚生事業団助成金	150,000
支出	コピー代	119,434
	製本材料・文具類	16,659
	糊	
	ケント紙（表紙用色紙）	
	サインペン（原稿記入用）等	
	原本購入代金	3,287
	拡大写本の盲学校への送料（郵便・宅急便）	10,620
	合計	150,000

以上